

意見の概要および市の考え方

No	意見の概要	意見数	市の考え方
I 計画の趣旨について			
1	この素案のままでは、これから 10 年計画で彦根市の芸術・文化を振興せずに、育成の場である練習場を取り上げ、文化が育たなくなるよう文化芸術団体を突き放して、迫害し、衰退するように進めていこうとしているように見える。	1 件	本計画は、彦根市の文化・芸術を振興していくための拠点となる文化施設を将来にわたって維持・継続していくため、今後の管理・運営のあり方を検討し、より効率的に活用していくための方針を示すものであり、ご意見のような趣旨ではありません。
II 文化施設の有効利用について			
2	素案では、統計上の数字からだけで利用率の平準化を図るとあるが、利用率が低いには理由がある。単に利用奨励や呼びかけだけでは、利用率の向上に向けての問題は解決できないと考える。交通の便が良い、駅から近いなどの立地条件と予約方法など使用団体が利用しやすい環境を考慮しないといけない。施設の有効利用を図ることはそのとおりと思うが、理屈だけでは利用率の平準化は難しいと思う。	1 件	施設によっては立地条件などの違いもありますが、現状における地域的施設の位置づけを見直し、全市的な施設としての活用を検討するとともに、管理運営方法についても検討を行うなど、利用率の向上・平準化を図ってまいります。
III 彦根市民会館の舞台練習場の代替施設について			
3	これまで彦根市が市民会館舞台練習場で提供してきたような素晴らしい芸術文化の育成・応援活動を今後も継続・維持できるようお願いしたい。舞台練習場の機能を新設ではなくても、既存の公共施設等を改修・修繕・増築工事などして、代替施設を設けて引き続き応援していただくよう再検討をお願いしたい。	2 件	市民会館の舞台練習場の代替施設としては、ひこね市文化プラザ、みずほ文化センター、高宮地域文化センター（以下、「3つの文化施設」という。）の利用率や県内市町との公立文化ホール保有状況の比較においても受け入れることが十分可能であるとともに、施設利用の公平性や受益者負担の観点から、代替施設は設けないこととしております。
4	彦根市は、新たな施設は設けずに、どのような具体的な方法・理由で、舞台練習場の機能は他の 3 つの文化施設の利用状況から受け入れが十分可能であると結論づけることができるのか。	1 件	本計画素案において、3 つの文化施設の部屋別・時間帯別利用率を詳細に整理・分析しており、市民会館舞台練習場の主な機能移転先と考えられるひこね市文化プラザのグランドホール・エコーホール・メッセホール・リハーサル室、みずほ文化センターの多目的ホール、高宮地域文化センターの

			ホールなど、その利用状況から受け入れは十分可能であると考えております。
5	<p>みずほ文化センターが主要な練習場所となった場合、電車で利用していた人が会場への移動が困難になる。団員に児童がいる団体は親の送迎がなければ練習参加が困難です。稲枝駅からみずほ文化センターへの路線バス、コミュニティバスのような形でも増発されれば現実的に対応しやすくなると思う。</p>	1件	<p>稲枝駅・みずほ文化センター間では、現在、路線バス「稲枝環状線」が、平日の朝と夕方に1便ずつの運行ですが、そのほかの公共交通機関として、予約型乗合タクシー「愛のリタクシー」の「石寺線」「新海浜線」がそれぞれ12便設定されており、予約さえしていただければ、市外の方を含め、どなたでもご利用いただけるようになっています。</p> <p>本市では、比較的公共交通の利用者が少ないと見込まれる地域では、「愛のリタクシー」を運行するよう取り組んでおり、現在のところ稲枝地域で路線バスを増便する予定はありませんが、今後、公共交通機関の利用者が増加し、路線バスによる対応が効率的であると判断される場合には、路線バスの運行体制の見直し等を検討してまいります。</p>
6	<p>大型楽器を保有する団体にとって楽器を保管できるスペースのある練習場を準備してもらうのがベストだが、不可能な場合みずほ文化センターが主要な練習場所となる。共有できる楽器保管庫（断熱がしっかりしたもの）が施設内または隣接した地域内に必要となる。</p> <p>また、大きな太鼓を運ぶためにトラックを借りると経費がかかる。いくつかの団体共有で構わないので楽器保管庫とトラックを市で用意する検討が必要だと考える。</p>	1件	<p>音楽団体に限らず、それぞれの活動において必要な費用については、原則、各団体自らが負担されるものであり、市が、一部の団体が利用するための楽器保管庫の設置や、トラックの費用を負担することは考えておりません。</p>
7	<p>市民会館の代わりに練習場として現実的にはみずほ文化センターが主要な施設であるが、半年前から予約可能なのは良いが、予約する団体の数も増えて、市内でも遠方に位</p>	1件	<p>みずほ文化センターの使用申請については、「みずほ文化センターの管理運営に関する規則」により、使用しようとする日（引き続き2日以上使用</p>

	置する団体も参加することを考慮し、せめて1か月単位の練習日程を組めるよう、システムの変更が必要では。		しようとする場合は、その最初の日をいう。)の前6か月から申し込みができることとなっています。 ご意見のとおり、現在の規則では定期的に使用しようとする方で、少しでも早く申し込みしたい場合、その6か月前となる日に都度、申請が必要となることから、今後の利用状況によっては規則の見直しが必要であると認識しています。
8	市民会館の代替施設として新しい施設を建設することが難しいのであれば、3つの文化施設以外の既存の公共施設が使用できないか。(学校の空き教室・体育館、荒神山自然の家体育館、彦根西高校跡地など)	6件	公共施設の使用については、各施設の設置条例・規則等で定められた条件や、施設管理上の支障の有無などを総合的に判断し、施設設置者が許可することになります。
9	他の3つの文化施設の利用状況に余裕がある要因は「公共交通機関でのアクセスが悪い」という点があると考え。市民会館の舞台練習場へは県外からも公共交通機関で通っており、市民会館が利用できなくなれば、参加を断念せざるを得なくなることから、3つの文化施設へ公共交通機関でのアクセス改善などの検討を要望する。	1件	ひこね市文化プラザについては、最寄駅である JR 南彦根駅から半径1キロ圏外(1.9km)にあります。バス路線や予約型乗合タクシー「愛のりタクシー」の停留所があり、交通アクセスは整備されております。 高宮地域文化センターは、最寄駅である近江鉄道高宮駅から300メートルの交通アクセスのよいところに位置しています。 みずほ文化センターは、最寄駅である JR 稲枝駅から半径1キロ圏外(2.1km)の場所にあり、バス路線や愛のりタクシーの停留所はありますが、公共交通機関でのアクセス性は比較的低い状況です。 現在、練習場として使用されております市民会館に比べると、最寄駅からの交通アクセスは劣る施設もありますが、自家用車で参加される方による最寄り駅までの送迎など、各利用団体にご協力をお願いしたいと考えております。

			<p>なお、本市では、比較的公共交通の利用者が少ないと見込まれる地域では、「愛のリタクシー」を運行するよう取り組んでおり、現在のところ、路線バスを増便する予定はありませんが、今後、公共交通機関の利用者が増加し、路線バスによる対応が効率的であると判断される場合には、路線バスの運行体制の見直し等を検討してまいります。</p>
10	<p>現市民体育センターは平成 25 年度に耐震補強工事を行っていると聞きました。このような建物をなくすのはもったいない。是非残して市民会館を使用していたグループに使わせてほしい。</p>	2 件	<p>平成 36 年に滋賀県において開催される国民体育大会に向け、滋賀県が(仮称)彦根総合運動公園を整備されることに伴い、現市民体育センターを移転することとしておりますので、代替施設としては考えておりません。</p>
11	<p>現在計画されている新市民体育センターに防音機能を備えた文化・音楽芸術練習場としてのスペースと楽器保管庫を確保してほしい。</p>	3 件	<p>(仮称)彦根市新市民体育センターは、体育施設としての機能のほか、建設予定地に現在設置しているひこね燦ばれすの機能を併せ持った施設として整備することとしており、その中で、ひこね燦ばれすの多目的ホールに相当する機能を整備することは考えております。なお、一般の方の楽器を預かるための器具庫を併せて整備することは考えておりません。</p>
12	<p>市民会館の舞台練習場を廃止することはやむを得ないが、それに代わる練習場所の確保と太鼓を保管できる楽器保管庫の設置をお願いします。</p>	7 件	<p>市民会館の舞台練習場の代替施設としては、他の 3 つの文化施設の利用率や県内他市町との公立文化ホールの保有状況の比較においても受け入れることが可能であると考えています。</p> <p>楽器保管庫の設置については、原則、音楽団体に限らず、それぞれの活動において必要な費用は各団体自らが負担されるものあり、一部の団体が利用するための楽器保管庫を市が新</p>

			たに設置することは考えておりません。
13	彦根城付近か市民会館を壊したときに、舞台とほんのわずかな客席を準備できれば、練習場にもなるし、観光客のための太鼓体験などができる体験型のスタイルを取り入れられる。	1件	市民会館を廃止した後の土地利用については、その土地の大部分が民間からの借地であるため、本市のまちづくりにおける総合的な取組や土地所有者の意向を踏まえ、市関係所属や関係機関と連携を図りながら検討していきます。 また、本市における体験型観光の推進については、例えば商店街の空き店舗を利用するなど、既存の施設や観光資源等を活用することが望ましいと考えているとともに、彦根城周辺については、既に本市の文化財や歴史を紹介する彦根城博物館や開国記念館などの施設もあることから、体験型観光施設を含めた新たな観光施設の整備を行うことは考えておりません。
IV 高宮地域文化センターについて			
14	彦根市と高宮町の地域文化センターのとらえ方が違うように思う。 コンパクト+ネットワークの都市づくりのモデルケースとして、高宮地域文化センターを核として、利用方法の改革に対してのアドバイスをしてほしい。「彦根市文化施設適正管理計画」と「彦根市立地適正化計画」の連携した町づくりを希望する。	1件	コンパクト+ネットワークにつきましても、彦根市立地適正化計画において検討を進めておりますが、モデルケースとしての位置付けは、市内の都市機能や人口の配置状況等から判断すると難しいと考えております。 ご意見のとおり本市としましても「彦根市文化施設適正管理計画」と「彦根市立地適正化計画」については、今後の人口減少、少子高齢化に備えるためにも重要な計画となりますことから、相互に連携を図りながら、高宮地域の中心的な施設としての位置づけを考慮しつつ、高宮地域文化センターの管理運営方法の検討も進めてまいります。